

Viriato (?-139 a. C.)

- 紀元前150年、ローマ人総督ガルバが土地を求めるルシタニア住民を殺戮すると、ローマ支配に対して蜂起した。もとは、牧人、狩人、あるいは盗賊。
- ブラエトル(法務官)ヴェティリオの和議を拒んで、ゲリラ的戦闘を行ない、ローマ軍を悩ませる。その勢力範囲は、中央山系からグアダルキビル川流域に及ぶ。
- 紀元前145年、ローマ元老院は、ファビオ・マクシモ・エミリアノを指揮官とする強力な軍艦を半島に送る。
- ルシタニア住民は敗北し、紀元前144年、グアダルキビル川流域を放棄。
- 紀元前143年、ケルト=イベリア人の反乱、ヌマンシアの戦いが起こり、ローマ軍は勢力を分けて、これに対処せざるを得なくなる。
- ビリアトは、ベティカ地方に勢力を拡大、ハエン南西のトゥッシでローマ軍を打ち破る。
- 紀元前141年、ローマ執政官セルビリアノは、ビリアトをルシタニアまで放逐。
- セルビリアノとビリアトの間に和平交渉。紀元前140年、ローマはビリアトを「ローマ人民の友」と認める。
- 社会的緊張がルシタニア人の内部対立を深める。
- ローマ執政官セピオンは、再びビリアト打倒を図る。和平交渉に向かわせたディタルコン、アウダックス、ミヌロスは、セピオンに買収され、ビリアトが就寝中に彼を殺害する。
- ビリアト死去とともに8年も続いた反乱に終止符が打たれる。
- ルシタニア人は、新たな首領を選ぶが、この人物タウタロスはローマに有効に抵抗できずに捕虜となる。
- 残りのルシタニア兵たちは厚遇されて土地を受け取り、紀元前138年、闘いは最終的に終わる。

《Alianza, Diccionario》

Santiago

- 12使徒の一人で福音史家ヨハネの兄弟の聖(大)ヤコブ
- 〈伝承〉スペインの地で布教を行ない、柱(ピラール)の上に現れた聖母マリアの教えに従って、エbro川ほとりのサラゴサの地に教会を建てたとされる。

【参照】「サンティアゴ巡礼と中世キリスト教スペインの社会」

- 中世(9世紀半ば頃)には、ガリシアの地サンティアゴ・デ・コンポステーラに、ヤコブの墓が発見されたとして、以後スペインのレコンキスタの守護聖人として位置づけられる。
※キリストの使徒の布教を受け、彼に庇護されたスペインという「事実」は、キリスト教スペインという集団的記憶の形成にきわめてふさわしいものとされたのである。
- スペインの守護聖人とされた聖ヤコブの祝日(7月25日)
- スペインの女性の守護者とされた柱の聖母の祝日(10月12日)

⇒ともに盛大な宗教行事が行なわれた。

《 Santiago Matamoros 》
(834年、Clavijoの戦いに聖ヤコブが現れるという奇跡譚)

Justo y Pastor

- 紀元前4世紀初めに、アルカラ・デ・エナーレスの地でキリスト教迫害により捕らえられるが、拷問に屈せず殉教した二人の幼子の兄弟。
⇒スペイン人の信仰心の篤さを知るための格好の歴史的事件

Escuelas Monacales

- 中世の修道院学校

Covadonga

- 西ゴート王国崩壊直後、イスラーム軍の支配を拒否した西ゴート貴族ペラーヨは、イベリア半島西部のカンタブリア山麓に逃れて、バスク系の先住民であるアストゥリアス人社会に同化し、その首長と親族関係を結んで、国王に選出される。
⇒ペラーヨ(在位718~737)を初代国王とする、アストゥリアス王国の成立。
- ペラーヨは、イスラーム軍の南フランス遠征が失敗した722年頃、コバドンガの戦いで初めてイスラーム軍を破る。
- カンタブリア山中のカンガス・デ・オニスを首都とした。



El Cid

- 11世紀に活躍した「エル・シッド」は、もっぱらキリスト教徒戦士として描かれた。
 - そのキリスト教的徳と勇気が称えられる。
- 実際には、イスラームの国王にも仕えたいわば戦国時代の武将であった。

【参考文献】

- 『スペイン中世・黄金世紀文学選集(わがシッドの歌)1』(牛島信明訳、国書刊行会、1994年)
- R.フレッチャー(林邦夫訳)『エル・シッド』(法政大学出版局、1997年)

San Fernando

- 1217年、フェルナンド3世(1139?-1252)がカスティーリヤ国王となる。
- 1230年、レオン国王を兼ねる。
- レコンキスタを推し進めて、1252年5月30日に死去。セビーリヤ大聖堂に葬られる。
- やがて、「聖フェルナンド」として褒め称えられる。
⇒1671年に聖人の称号を受ける。



Dominguito de Val

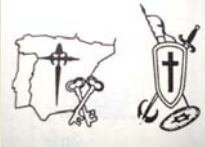
- 13世紀半ばにサラゴースで、ユダヤ人による儀式殺人(幼子をキリストに見立てて殺害するという)の犠牲になったとされる7歳の少年、ドミンゴ・デ・バル。
- 中世にサラゴースではバルへの信仰が高まり、奇跡的に「発見された」その遺骸はサラゴース大聖堂の礼拝堂に安置されている。
- 10月27日が、その聖人の日



1491年、ラ・グアルディア村(トレド)で起こったとされる儀式殺人

Reyes Católicos

- 「カトリック両王」
- 1492年、グラナダを攻略してレコンキスタを完了し、ユダヤ教徒を追放して、スペインに宗教的統一をもたらした。



Colón

- カトリック両王の庇護を受けて、1492年10月12日にアメリカを「発見」。
- スペイン人コンキスタドールの手によってキリスト教は新大陸に広まっていく。



Universidades

- ・ アルカラ・デ・エナーレス大学を中心に「大学」では学問が栄える。

Lepanto

- ・ 1571年、**レパントの海戦**でスペインは、オスマン帝国を破る。



Felipe II

- ・ 16世紀後半のフェリーペ二世の時代(治世、1556～1598年)は、スペインにとって輝かしい時代、「陽の沈むことのない」帝国の時代であった。



フェリーペ2世の支配地域



Velázquez/Santa Teresa/Cervantes

- ・ 16世紀後半から17世紀前半にかけてスペインは、プロテスタントの「自己崇拝的・合理主義的革命」に対するカトリックの正統性を守る対抗宗教改革の旗手となった。
- ・ 芸術、信仰、文学もその**黄金時代**(Siglo de Oro)を迎え、「ベラスケス」、「聖女テレサ」、「セルバンテス」らが輩出した。

Velázquez, Diego Rodríguez de Silva y (1599-1660)



Teresa de Jesús, Santa (1515-1582)

- ・ 修道女(女性の聖職者)
- ・ 読み書きをする女性
- ・ アビラ市の裕福な市民の家系
- ・ コンベルソの家系
- ・ 神秘主義

Cervantes y Saavedra, Miguel de (1547-1616)



《忘却される時代》

- ・ 17世紀に進行したスペインの衰退
- ・ 18世紀の啓蒙改革の時代
- ・ 19世紀の革命と反革命の時代

※18世紀はスペインに「自由主義とフリーメーソンのペスト」が生まれ、19世紀にはそれが蔓延して、「スペインの本質」が歪められた。

José Antonio

ホセ・アントニオ・プリモ・デ・リベラ(1903-36年)

- ・ 1933年、スペインのファシズム政党「ファランヘ」の創始者
- ※「反カトリック的・反軍隊的・反スペイン的」第二共和政に対抗。



Cruzada Nacional

- ・ 1936年7月18日、スペイン第二共和国に対する右翼軍事クーデター



Alcázar de Toledo

- ・ 1936年7月、「国民十字軍」が組織されて、国民解放の戦いに入ります。
- ・ 「トレードのアルカサル(城)」では、モスカルド将軍が英雄的に「アカ」の攻撃から城を守り、祖国のためには息子を犠牲にすることも辞さない。



Franco

- ・ 内戦の苦しい状況の中、あくまでも国民十字軍を指揮した「フランコ将軍」は、全国民の統領(カウディーリョ)となって、「新国家(Nuevo Estado)」建設に向けて邁進する。

